

TTC 提案山行実施記録表

2015年8月7日 報告者:ET

山行名	日高山脈の盟主 幌尻岳登頂(2052m) [幌尻岳:2052m、戸蔭別岳:1959m /北海道]				
実施日	2015年7/24(金)~7/28(火) 4泊5日 公共交通機関&レンタカー利用				
天候/参加人員	天候:実行欄に記載 レベル:★★★★☆ 参加人員(申込:8名、参加:8名)				
パーティスタッフ	CL/計画: 、SL: 、会計: 、救護: 、写真: スタッフ名削除				
参加メンバー	参加者氏名削除 [男性:5名、女性:3名]				
費用(一人当たり) 〈羽田空港集合者〉 ¥79,500/人 〈千歳空港集合者〉 ¥27,500/人 TTCカパ金: ¥694	<ul style="list-style-type: none"> 航空運賃 羽田~新千歳:¥42,080/人(往復)、 (注)75日前割引適用, ANA レンタカー 4日間:¥29,030/1台、マイカー-車両提供代:=¥2,000/1台 注)車両費用負担は、7名 ドライバー-謝礼: @2,500×2日×2台=¥10,000、燃料代:¥4,438/2台、 シャトルバス(とよぬか山荘⇄第2ゲート): ¥4,000/人(往復)、 <交通費> :計各¥52,575/人、 とよぬか山荘:1泊2食¥5,000、幌尻山荘:@1,500×2泊、平取温泉ゆから:¥14,845 <宿泊料> :計各¥22,845/人、 共同食糧費: 4食分 ¥2,281/人、光熱費: @650×4缶 ¥325/人、 二風谷アイヌ文化博物館: ¥700/人 ・通信費:¥2,000 ・カンパ金: ¥694 				
歩行時間 休憩時間 行動時間	日程	歩行時間	休憩時間	行動時間	行程
	7/25[月]	計画 4:50 実行 4:43	1:40 1:00	6:30 5:43	第二ゲート ~幌尻山荘
	7/26[火]	計画 9:30 実行 7:32	2:10 1:47	11:40 9:19	幌尻山荘~幌尻山荘 (ピストン, コースに変更)
	7/27[水]	計画 4:20 実行 4:33	0:30 1:01	4:50 5:34	幌尻山荘 ~第二ゲート
実行コースタイム記録					
7/24(金) ANA063便 日産レンタカー 本厚木駅====横浜駅====羽田空港=====新千歳空港=====とよぬか山荘 泊 12:00 13:35/14:30 95km 16:30頃					
7/25(土) シャトルバス 2:25 (休12) (休28) 2:18 (休20) とよぬか山荘=====第2ゲート-----取水施設-----幌尻山荘 泊 7:00発 7:48着-8:05 林道 10:42-11:10 渡渉 13:48					
7/26(日) 1:51 (休8) (休9) 2:16 (休28) (休30) 1:45 (休10) (休12) 1:40 (休20) 幌尻山荘-----命の泉-----幌尻岳 2052m-----命の泉-----幌尻山荘 3:30起床-5:16 7:15-24 10:08-10:38 12:33-45 14:45					
7/27(月) 2:37 (休25) (休26) 1:56 (休10) シャトルバス 1:00 幌尻山荘-----取水施設-----第2ゲート-----とよぬか山荘-----平取温泉ゆから 泊 3:30起床-5:11 渡渉 8:13-39 10:45/11:00発 12:00着 14:00頃					
7/28(火) ANA074便 平取温泉ゆから=====新千歳空港=====羽田空港=====本厚木駅 9:00 二風谷観光 17:30発 19:05着 解散					
コースの概要、特記事項、反省					
百名山最難関と云われる幌尻岳額平川ルート挑戦の事となり、春先から種々、準備・手配を行い、西丹沢での渡渉訓練も終了し、用意万端のつもりであったがこのコースほど天候に左右されるコースは、なく、7月に入ってからは、気を揉む毎日であった。目論見通り関東は、7月21日梅雨明けが発表されたがまもなく台風12号が発生し、一旦、熱帯低気圧になったり、また台風に戻ったりと天気予報もコロコロ変わり、一喜一憂する破目になってしまった。結局、梅雨明け後の太平洋高気圧の張り出しが弱く、北海道の低気圧を押し上げる事が出来ず、前線も津軽海峡をウロウロする始末で、終始、天候を気にしながらの山行となった。 (やはり地球規模で気候環境の変化が著しい現在、2月段階で予測を立て日程を決めるのは、本当に難しいと痛感)					

7月24日【金】羽田空港～とよぬか山荘 天候：曇り時々 晴れ

羽田空港 11時集合で西丹沢での渡渉訓練以来、久しぶりにメンバーが集まったが百名山最難関と言われる幌尻岳山行への気負いか、いつもより気分が高揚している感じもあり、体調は、すこぶる良さそうである。予定通りの出発となり、機内で昼食をとり、新千歳空港に定刻の13時半に到着した。空港より送迎バスにて日産レンタカーに行き、そこでこの春までTTCに在籍していた北海道支部長ことYさんと落ち合う。レンタカーとYさんのマイカーとに分乗し、とよぬか山荘に向かう。途中、JA平取(びらとり)に寄り、野菜や飲物など食材を調達し、明日からの山中2泊の最終食糧を確保した。本来、カーナビでは、振内(ふれない)から道道638号線でジグザグの山道を峠越えする事になるが予め、下見をしてくれたYさんの案内により貫気別(ぬきべつ)経由でやや迂回気味に山荘に向かう。平地ルートで難なく到着し、事前調査していただいたYさんの気遣いに感謝・感謝である。

このとよぬか山荘は、平成20年に閉校した豊糠小中学校の校舎を改装し、宿泊客収容24名で平成22年にオープンしたもので清潔で且つ、広々とした廊下等、実に気持ちの良い宿舎である。平成23年からここより先の林道が一般車両通行禁止となり、シャトルバスでの入山しかできなくなり、発着場所の機能を含めて幌尻岳登山基地となっている。シャトルバスは、額平川の水位により、渡渉が困難と判断された場合は、運休する事になっている。仕組みとしては、幌尻山荘横の沢に目安の水位計があり、それをオーバーするか、しないかで決まる様である。管理人に状況を確認すると「昨日、豊糠は、小雨だったが幌尻岳周辺が強く終日、運休となった。今日は、雨が止んで再開となったが明日は、今夜の降雨状態で決まる」との事。おまけに今日以降は、毎日、「曇り一時雨」という様な天気不安定な予報でなんと曖昧で難しい判断を迫られる状況である。取り合えず、入山できなかった場合や停滞になった場合の宿や予備宿のキャンセルなどについてメンバーと打合せを行い、次の事項を確認し、明日を待つことになった。

- ・明日25日入山ができなかった場合、とよぬか山荘は、満室であるが他の民宿を紹介してくれるとの事。
- ・27日に下山できなかった場合、幌尻山荘は、空きがあり、延泊が可能であった。
- ・明日、入山できなかった段階で平取温泉ゆからのキャンセルを実施する。(2日前、キャンセル料ゼロ)

夕食は、ここの定番、「ジンギスカンと地場野菜」でこれがなかなか、おいしい。明日の天気をひたすら祈りながら9時消灯。

7月25日【土】とよぬか山荘→第2ゲート～幌尻山荘 天候：小雨 後 曇り時々晴れ

夜半から雨が降っており、入山できるかどうか、心配しながらの目覚めとなったが窓の外を見ると3時便が出発した後、マイクバスが戻って来て待機状態にあった。小雨がまだパラついているけどどうやら、7時便も出発しそうである。前日に準備されている「かあちゃんおむすび」の朝食を頂き、校舎前に出る頃には、祈りが通じたか、雨が上がって来た。林道を走る事≒50分、第2ゲートに着く。ここが幌尻岳登山、額平ルートの登山口だ。入念な準備体操を行い、スタートする。取水施設までは、≒7Km、狭い峡谷の中腹につけられた林道を緩やかに上っていく。元来、林道歩きは、退屈なものであるが手つかずの原生林や滝など見どころが多い。特に滝は、急傾斜の沢なのか滝なのか判別がつかないが垂直に落ちるものあり、幾段にもなって落ちるものありと幾つも現れる。本州では、それひとつで観光になりそうな滝が名前もつけられず無造作に出現する。日高のスケールの大きさを実感せざるを得ない。道の側には、路が青々と生えているがこれもなんと大きい。

取水施設で沢靴に履き替え、渡渉装備を整える。ここから山荘までは、≒4Km だが右岸に道が拓かれていて以前より、だいぶ渡渉開始地点が上になった様な気がする。実質渡渉区間は、3 Km 程度だろうか？ 只、この右岸の道は、沢沿いに鎖がついた難所のへつりが数ヶ所あって気が抜けない。愈々、渡渉開始地点だ。今日は、かなり水位も高く、流れもキツイ。太腿付根まで浸かりながら、流れに抗して踏ん張り、慎重に渡渉を繰り返していく。一瞬たりとも気を抜けない、緊張の連続だ。しかし、渡渉訓練の成果だろうか、全員が割合、しっかり、流れの中で歩を進めていく。

途中、1ヶ所、川幅が少し狭まり、急流を渡らざるを得ない場所に差し掛かり、全員の通過には、不安がありそうだった事から安全のため、ロープを張って渡渉する事にした。持参してきたスリング 120 cmを用い、シートベント結びによる簡易チェストハーネスを作って装着し、カラビナをロープに滑らせながら一人づつ渡った。幸い誰も転倒等なく無事渡渉できたけれど万が一の対応だけでなく、安心して渡れたという面での効果も大きかったと思われる。

取水施設から2時間半、山荘に到着。緊張の連続で「重たい荷物を背負っている事すら忘れて渡渉していました。」と言ったメンバーがいた程だったが幸い雨にも降られず「乗り越えて来た!!」と云う充実感で一様に晴れがましい顔であった。

幌尻山荘は、室内に荷物を持ち込まず、寝床を確保し、必要な物以外は、小屋裏側の物置場に収納しなければならないが濡れたものの着替えやらで結構、時間がかかる。やはり、7時便で来るのが正解の様だ。荷物の整理が完了したら、まず明日の飲料水の確保を行う。エキノコックス症の対応で生水は、不可なので湯を沸かして各自のボトルへ詰めるが一人2ℓ相当なのでこれもかなり時間がかかる。夕食は、共同炊事では、あるが食当のKMさん、Tさん、Mさんが奮戦してくれ、即席に色々、手を加えてくれて実に美味しい。JA平取で購入してきたトマトやキュウリなども沢水で冷えて山中では、感動的なおいしさである。アルコールなども入れながら、明日へのミーティング……。19時30分消灯、就寝。

7月26日【日】幌尻山荘～幌尻岳～幌尻山荘 天候：曇り時々小雨

3時30分起床、屋外にて食事が終了すると小雨がパラついてきた。レインウェアを着用して5時16分出発。幌尻山荘を出るとすぐに樹林帯の中の急登が始まる。助走なしのいきなりの登りで目覚めきっていない体は、かなりきつい。確実に標高を稼いでいくが汗が噴き出す感じでもたまらない。最初の休憩で雨が霧状になってきた事から、レインウェアを脱いだ。原生林をひたすら上る事2時間、命の泉分岐で休憩。少し下ったところにある水場まで行くがエキノコックス症を恐

れ、冷たさを確認するのみで誰も飲む人は、いない。まもなく森林限界を越え、ハイマツが現れてくるが北カールの稜線には、まだまだ傾斜がきつく、なかなか着かない。登山道の両側ハイマツの下にゴゼンタチバナが咲いている。かなり長い間、続き、見とれているうちに北カールの尾根に出た。本来ならば雄大な北カールの絶景が見える地点なのだが残念ながらガスがかかっていて底部の池塘がわずかに確認できるのみである。1750m 地点にて休憩。馬蹄形の北カールの稜線上を左回りに進む。突然、エゾウサギギクが一面に咲き群れている。メンバーからの歓声上がる。圧巻の花畑劇場の始まりだ。進むにつれてエゾハクサンイチゲ、ミヤマキンバイ、アズマギク、チシマフウロ、エゾシオガマ、アオノツガザクラ、ハクサンチドリ、チングルマ、……、……、……、etc. 多種多様な花が咲き乱れている。将に百花繚乱、このことか？

何たる広さなのだろうか、北カールの稜線上、この花畑劇場は、休憩なしの歩行で50分程続く。この花畑の写真をカメラ担当のKSさんに撮っていただいたがこの広がりというか、臨場感というものを伝えるのは、なかなか容易ではない。やはり、苦勞してここまでやって来たものだけが味わえる至福の光景なのだろう。花畑を過ぎて岩場を上り、新冠ルートからの分岐を越えるとまもなく山頂だ。歩き始めておよそ5時間、2052m 幌尻岳山頂に到着。ガスがかかって眺望は、得られないが百名山最難関と云われる日高山脈最高点、幌尻岳の山頂に遂に立ったという喜びが上回る。歓喜のハイタッチが続く。メンバー全員、大満足の瞬間である。雨は、止んでいるもののガスが晴れそうにもないので七つ沼や戸蔭別岳の眺望が期待できない上、不鮮明なハイマツ帯の下りや六の沢からの渡渉など今日はリスクが多い事からメンバーに諮り、周回コースを止めピストン下山する事とした。30分ほど山頂で達成感に浸りながらの休憩とし、下山を開始した。また雄大で幻想的な花畑を楽しみながらゆっくりと下山する。命の泉まで来ると少し雨がパラついて来てレインウェアを着た。稜線上で雨が止まっていたのは、本当にラッキーで来るときの渡渉時の天候といい、「なかなかしぶとい」集団だ。幌尻山荘には、15時前についた。今日は、小雨が降っている事から夕食は、室内にて取って良いという事でアルコール入りで懇親を深めながらの夕食となった。沢の水位が気になりながらも……19時30分消灯、就寝。

7月27日【月】 幌尻山荘間～第2ゲート→とよぬか山荘→平取温泉 天候：曇り

3時30分起床、夜明け前までパラついていた雨も収まり、どうやらシャトルバスは、運行されているようだ。今日は、シャトルバスさえ、運行するレベルであれば、多少、水嵩が多くても下山すると決めていたので全員、手早く出発準備を整えた。水位を確認するため、SKさんが山荘横の額平川に目印をおいて置いた様で上って来た日に比べて20cm高いとの事。メンバーに緊張が走る。管理人からも今日は、かなり、水量が多いので特に慎重に下山するようCLに念を押された。準備体操を終えた後、ロープ渡渉にすぐ対応できるよう、全員、簡易ハーネスを結び、カラビナを装着してもらいスタートした。小屋下からすぐに渡渉を開始するが水量も凄く、上りの時より、格段に流れがきつい。

通常、額平川の渡渉は、大体、渡渉ポイントが決まっていますそこを歩いて行けば、いいのだが今日は、まったく様相が違う。一見では、渡渉ポイントが解らない。浅瀬を選びながらという事になるが流れを重視して腰迄浸ってもむしろ、緩やかで川底が平らなところを選んで慎重に渡渉する。幸い水が濁っておらず川底が見えるので助かる。ただ深さの距離感が解らず、身長184cmのCLが臍まで浸かり、別ルートを探すといった事もあり、確認しながらの渡渉が続く。上りの経験で習熟されたのか、腰まで浸かってもしっかり、踏ん張ってスリ足で慎重に渡渉を次々、こなしていく。上りでの難関ポイントに差し掛かるとさすがに水量も多く、流れも格段に速くなっていてロープ渡渉をせざるを得ない。トップがCLでラストをSKさんでロープを張り、簡易ハーネスと締結しながら一人づつ渡渉を行った。上りとは、異なりロープと締結されたスリングにテンションがかかっているメンバーが大半でロープに支えられながらの渡渉となった。最後にKMさんとバックアップにYさんと2人で渡渉したがもう少しと云う所でKMさんが転倒、Yさんも受止められず2人が横倒し状態になった。ザックの腰バンドを外して渡渉し、ロープを上流から下流に向けて張った事から想定内で水を飲む事なく、岸に漂着、問題なく自力で立ち上がった。その後、傍にいた福岡から来たというご夫婦にスリングは、持っているので「自分達もロープで渡らせて下さい」と懇願され、快諾、2名の追加ロープ渡渉を行った。危なっかしい状態であったがロープを頼りに無事渡渉を終え、感謝された。≒3時間で取水施設に到着。全員が緊張感から解き放たれてほっとすると同時にリスクの高い渡渉をこなしたという充実感に満たされている様だ。今回の山行では、体力の話題がほとんどなく、「バテた」「疲れた」「……が痛い」などの言葉を終ぞ、聞かなかった。健脚者ばかりが揃ったのか、はたまた、緊張のあまり、感じなかったのか、何れにしても歩行は、快適だったに違いない。残り≒7Kmの林道歩きとなったがメンバー全員、余力十分、元気一杯という感じで2時間あまりの歩行を苦しなかった。原生林やいくつもの滝を眺め、ヒグマの糞やキタキツネに遭遇しながら、終始、和やかに歩き、10時45分第二ゲートに到着した。ここで先着していた福岡のご夫婦から改めて御礼を言われ、バスの中で購入した冷たい飲み物をメンバー全員に差し入れていただいた。恐縮しきりであったがありがたく、頂戴した。CLは、ここへ到着する迄、バスの発車時刻が今年度から改訂され、この便だけ変更されているのに気がつかず、計画書作成段階から11時30分と思ひ込み、時間管理をして来たが運転手さんに聞いてビックリ。メンバーの早め早めの対応に助けられ、計画より15分早く到着した事で11時発車のシャトルバスに乗車する事ができた。危うく次の17時便まで待機させるところでメンバーの協力に感謝、感謝である。計画書の作成と実施の時期が年度をまたがる場合、確実なチェックが特に必要と猛省しました。とよぬか山荘で不要になった山装備など各自、宅急便処理を行った後、昼食を取る事とし、ドライブインに寄る。名物らしい「キトビロラーメン」なるものを薦められ大半のメンバーが注文したがこの意味不明のラーメンがなかなか、美味しいもので評判が良かった。どうやら「キトビロ」とは、アイヌ語で行者にんにくの事らしい。その後、少し早かったが今夜の宿、平取温泉ゆからに向かう。ここは、従来あった平取温泉が老朽化に伴い、宿泊施設、温泉施設を昨年、7月にリニューアルし、ゆからとしてオープンしたばかりの立派な天然温泉宿である。「ヤマヤ」にとって

は、少し贅沢であったが山中3日間の汗にまみれた体を癒し、リフレッシュするには、最適の宿であった。予備日の宿泊先として選定してあったのだが予定通りに「幌尻岳登頂」を果たし、達成感に包まれ、天然温泉に浸かり、平取和牛、平取トマトなどふんだんの地場食材を使った食事を堪能する。良いパーティメンバーに恵まれて思い出深い一夜となった。

7月28日【火】 平取温泉～羽田空港 天候：曇り

額平川渡渉でのリスクを考慮し、予備日として1泊を設定していたが結果的に予定通りに下山できた事から平取町観光に充当する事にし、二風谷アイヌ文化博物館、資料館を見学し、復元チセ(住居)などで織物や楽器の体験などを楽しんだ。北海道先住者＝アイヌ民族の自然と共生して育んできた生活や文化は、興味深いものがあった。とりわけ、幌尻岳は、アイヌ語で「ポロ(大きな)・シリ(やま)」と呼び、神として崇める山で決して登らなかったそうで妙に感慨深い。予定通り、15時前にレンタカーを返却し、新千歳空港に行く。ここで本来なら、北海道支部のYさんとは、お別れの筈だったのですが律儀にも空港までお見送りしてくれるという。出航まで余裕があり、プチ懇親会を開いて親交を温め、北海道登山での再会を誓い合った。飛行機は、予定通りの運行となり、羽田空港に19時到着、解散となった。

<総括>

- ・山中3日間は、天候が不安定で山頂での眺望を得られず、雄大な北カールの絶景を眺めながら戸鶯別岳を周回する事は、断念したが雨らしい雨にほとんど当たらず、稜線歩きや林道歩きなど登山そのものは、割合、快適だった。渡渉中もまったく雨がなく、むしろ明るい曇り空だった事から低体温症のリスクからも減じられ、幸運だった。
- ・シャトルバス運行の可・不可は、リスクは、あるものの結果として渡れる水位(範囲)を示してくれる事になり、渡渉の判断が逆にはっきりして良かった。我々が渡ったレベルは、シャトルバス運行の上限に近い水位と思われるがリスク管理をキチンとしておけば全員が十分、安全に渡れる範囲だった。事前の西丹沢渡渉訓練に比べて倍以上の水位と流れの速さであったが沢のぼりなどの未経験者にとっては、不安の解消と良いトレーニングになった様で結果として今回の渡渉成果につながった。
- ・額平川の基本水位は、8月から9月に入ると極端に少なくなるが花の見頃がまったく過ぎてしまう。今回は、カールの花畑を主眼に水量の多い7月を日程的に選定した。渡渉が、大変であったが北カールの花は、予想以上に広大に咲き群れていて、メンバーの大感動を誘った。以前、同時期に来た時より多い感じなので当り年だったのかもしれないし、ピークがドンピシャとマッチングしたのかもしれない。何れにしても大成功である。
- ・避難小屋利用の縦走で且つ沢渡渉の装備などでかなりの重量を背負っての登山となったが脱落者は、おろか、列を乱す事もなく、終始、危なげなく登山を遂行した。山行レベルに応じた経験者が集まった事があるかもしれないがこの日をターゲットに各自が万全の体調管理に取り組んだ成果だと思われ、敬意を表します。

<最後に>

今回、ルートは、違うけれど深田久弥の「日本百名山」を彷彿させる、結果として似た様な山行となり、それなりに感慨深いものがありました。

<日本百名山> 8 幌尻岳(2052m) から抜粋

「渡渉は、それから限りなく続いた。初めは、なるべく濡れまいと心がけていたが、ヒザが濡れ、モモが濡れ、ついに冷りと一物が水に犯されるに及んでもう観念して濡れることには、平気になる。」…………

「私たちがその急傾斜の圍谷壁を登り始めた時、霧が一切を包んでしまったが身のまわりには、あたり一面黄色く見えるほどウサギギクが咲き群れていた。稜線に達し、肩を越えて、霧の中を幌尻の頂上まで行った。

頂上でも白い気体のほかに何も見えなかった。しかし、私は満足であった。今こそ日高山脈の最高点に立ったのだ」…………

「日高の5日間は、天候には恵まれなかったが、よい仲間を得て、談笑が絶えず、私にとってまことに楽しい山旅であった。」

私達も幌尻岳山頂での眺望には、恵まれなかったけれどスリリングな渡渉をやり遂げ、雄大な花畑で数々の高山植物に出会えたりとそれなりに収穫のあった山行で何よりも深田久弥と同じく、「よい仲間を得て、談笑が絶えず、」CLにとってもまことに楽しい山旅でありました。

素晴らしいパーティメンバーと同行でき、感謝です。ありがとうございました。

— 以上 —